

念入りに梳かれたものは

君のために

君のために

この国のために

あるのです

いつだって一杯一杯な私たちは

霧の向こうの刺し傷も

何も分らないで

透きとおった頬杖をつきながら

静謐で平らかなモメント

空間を

まるでそれが敷布であるかのように

泳ぎながら

じっとツキを

見ているのである